

2023年12月15日

非血縁者間骨髄採取認定施設
採取責任医師各位
輸血責任医師各位
麻酔責任医師各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

骨髄採取マニュアル（自己血返血に関する）変更について（通知）

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
この度、標記について下記のとおり骨髄採取マニュアルを変更することとなりました。
つきましては、各施設内で周知の上、ご対応くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 変更する箇所

[骨髄採取マニュアル](#) P 8

(10) 採取手技 ※下線部を追加

採取速度は500ml / 30分以下とする。(中略)

採取が始まれば、適切なタイミングで自己血の輸血を開始する。

原則としてポンピングや加圧バッグは使用しないこと。

2. 変更の経緯

非血縁者間骨髄採取において発生した[自己血返血時に血管外漏出した事例](#)（安全情報 2023年6月30日）は、重大なインシデント事例であった。この事例では手術開始後に血圧低下を予防する目的で早期からポンピングが実施され、血管外漏出が生じた。麻酔導入による血圧低下であれば、循環作動薬等で対応することが一般的である。血管外漏出を防ぐために「原則としてポンピングや加圧バッグは使用しないこと。」とする。

また、過去に「自己血返血タイミングは、原則として骨髄採取開始後とする。」「骨髄採取終了後、採取責任医師もしくは輸血責任医師は、自己血返血が完了していることを確認すること。」との通知を行ったが、これは[自己血を返血し忘れた事例](#)（安全情報 2014年4月15日）の対策である。早期の自己血返血完了を重視することで上記のようなインシデントに繋がる懸念もあるため、今回の改訂では、『採取開始後に「適切なタイミング」で自己血の輸血を開始する』の記述に留めるものとする。

以上

【お問い合わせ先 : (公財) 日本骨髄バンク ドナーコーディネータ部 TEL 03-5280-2200】

骨髓採取マニュアル(2023/12/15) 新旧対照表

骨髓採取マニュアル P 8

旧	改訂後
<p>採取担当医師の見地から (10) 採取手技 (前略) 採取速度は500ml / 30分以下とする。採取困難事例においては、腹臥位による合併症（視力障害、皮膚障害、神経障害等）のリスクを考慮し、採取時間の上限を3時間以内とすることが望ましい。採取が始まれば、自己血の輸血を開始する。</p>	<p>※下線部を追加 (前略) 採取速度は500ml / 30分以下とする。採取困難事例においては、腹臥位による合併症（視力障害、皮膚障害、神経障害等）のリスクを考慮し、採取時間の上限を3時間以内とすることが望ましい。<u>採取が始まれば、適切なタイミングで自己血の輸血を開始する。原則としてポンピングや加圧バッグは使用しないこと。</u></p>

※骨髓採取マニュアル <https://www.jmdp.or.jp/medical/work/manual.html>